

- ③ 東北地方では古くから(稲)作がさかんであったが、1970年代に米が余るようになる。政府が(減反策)を始めたため、ほかの作物への転作が進んだ。

現在では、秋田県の(あきたこまち)のように、各県を代表する(銘柄(ブランド))米がつくられ、全国で販売されている。

- ④ 果樹栽培もさかんに行われており、津軽平野の(リンゴ)、山形盆地の(さくらんぼ)や西洋なしなどが、日本有数の生産量をあげている。

- ⑤ 太平洋の沖合には暖流と寒流がぶつかる(潮目)となっていて、多くの魚が集まる好漁場となっている。また資料1の海岸の入り江は波が静かいため、わかめやかきの(養殖)が行われている。

- ⑥ 東北地方の祭りなどの伝統行事は、おもに(稲(米))の収穫前の夏から秋に行われ、豊作を願って行われていたものであったが、現在では(観光)資源の一つとなっていて、各地から観光客が訪れる。

- ⑦ 右の資料2の天童将棋駒や会津塗など、多くの工芸品が国から(伝統的工芸品)に指定されている。

資料2



- ⑧ 交通網の整備が進むと、沿線に(工業)団地が形成されて、電気機械などの工場が誘致された。